覚醒する〝剛力〟。

2010年12月にモスクワにて発表されたばかりのマンソリー・カイエンが、異例のスピードで日本上陸を果たした。全身の各パートをマンソリーならではの高品位なカーボンパネルで装飾したその姿はまさに圧巻のひと言。カイエンの新世界を切り拓くかのような存在だ。

X6などいわゆるプレミアムSUV系を手がけている。このカイエン・ターボは、2010年12月に発表されたばかりの出来たてホヤホヤで、オートサロンに合わせて最速日本に上陸した。それは、カイエン・クーポの迫力をモニ二台に引き出すような、

バサルトブラックのボディの、その随所にちりばめられたカーボンマテリアルがこのブランドを物語る、鮮やか、猛烈な熱いを持つマンソリーの新型カイエンである。

もともとマンソリーはドイツ南東部に本拠を置き、ベントレーやアストンマーティンのオートクチュールを得意とするブランドだった。許今はよりシェアを拡大すべく様々なブランドに進出したが、ポルシェはとりわけユニークな経緯がある。2007年にスイスの名ポルシェチューナー「リンスピード」を買収してポルシェ界に名乗り出た。つまり、マンソリーのポルシェは、自身のコンセプト、技術はかりか、リンスピードのチューニングを存分に受け継いだ作品として捉えることができる。

という背景にある通り、このカイエンにはマンソリー・スイスのエンブレムが与えられている。現在、マンソリー・スイスはポルシェの他にも、レンジローバーやBMWX5、

極めて刺激的な挑戦が施されたコンプリートカーだった。

エクステリアの構築術は、さすがにマンソリーらしいものだ。前後にレーシングカーを彷彿とさせるディフューザー形状を盛り込んだエアロパーツにウイング、ボンネットなど。これらは全て一糸乱れぬドライカーボンで成型されている。そのカーボンのクオリティをてっとり早く確かめたければボンネットを開けてみるといい。素地や合組みまでフルカーボンで、圧倒的に軽い。なのに閉めるときになんの気遣いも要らないほど、強固な造りを持っている。カーボン職人集団の仕事を垣間見せる。

そのカーボンマテリアルの迫力に負けじと前後のフェンダーは張り上がり、すっぱりと22インチホイールを飲み込む。ドレスアップカーとして見るなら、もう少し大きいサイズを望む向きもあるだろう。だが、マンソリーはこれを絵に描いた鮮だと思って造ってはいないはずだ。荒野を疾走してもよし、時にはスノータイヤを履いて積雪地帯での足にもなる。SUVとしてのカイエンの魅力はそこなのだから、マンソリーはその性能を決して犠牲にしないのである。そのひとつの回答が、22インチというセレクトなんだと思う。その意味を考えてあらためてカイエンを見ると、なるほどガンガン使い倒したくなる説得性に満ちている。

マンソリーの基本理念は自動車のオートクチュール化だから、このような個体はあくまで基本メニューである。ここからさらなるオーダーを加えたり、また自分なりに別のモディファイを公てることも、もちろん可能だ。カーボンを全装すれば言ゆかしさを味わえるし、白系のボディにカーボン地を合わせればよりレーシーな装いになる。この仕様はまたインテリアが出来上がったら、マンソリーのもうひとつの指標性、あるインテリアメイクも、さぞかしお目見えするはずだ。と、同様に内燃機チューンによるカッ飛びオカイエンにも期待したい。

と、今後のマンソリー・カイエンの発展性にはつい期待してしまう。マンソリー・スイスではパーツ単体での供給も積極的に推奨しているから、コンプリートカーに数居の高さを感じるのなら、まずはお気に入りのパーツでコーディネイトして欲しい。パーツひとつを取ってみても、そこには甘美で強靭なマンソリーの世界が拡がっている。

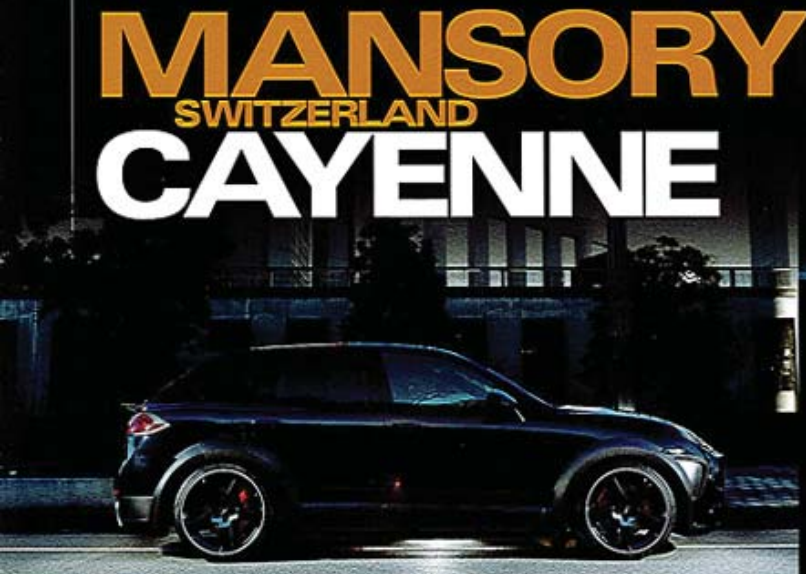
拡げられたフェンダーに22インチホイール。ショーカーとして見ると小さく感じるが、高級や雪道をガンガン使い倒せる実用性に富んでいる。タイヤサイズは295/30R22となる。

ダクトを設けてより空気を取り入れようとするフロントバンパーおよびボンネット。素材は全てドライカーボン製。圧倒的な軽さと共に、繊維の編み目が不気味な美しさを作る。

THE WORLD OF CAYENNE

スクエア形状のツインテールマフラーにディフューザー形状を開いたリヤバンパーが個性的だ。多くのスポーツカー達にこの味わ姿を好きせる。そんな空間をゆっていると、ルーフ後端にはリヤウイングつを取り置くようにカーボン製のスポイラーが装着される。また、リヤゲートにはエッジを形状を採用したトランクスポイラーが配置されるなど、それぞれのディテールがまさにマンソリーワールドといった感じに。もちろん各パーツを装着してしまえば、また違ったテイストでクルマを重時することも可能となるだろう。

MANSORY SWITZERLAND CAYENNE



問い合わせ／ラガーコーポレーション ☎048-653-2222 http://www.lager.co.jp